



母の親友が僕の愛人になっただけ

畠山桃哉

2

成年コミック

アシオナ NEXT





レイカさんの
性欲旺盛なのは
気がついてたけど…



ものには限度と
いうものがあって…



経験の少ない
僕からしても
レイカさんののは
異常だと思うほど
だった…



とにかく
レイカさんは
スキあれば
僕の体を求め…



そして
若い男の本能で
僕の体はすぐに
反応してしまい…







というのも
簡単にいうと…

実際大学で
僕の取り巻く環境は
大きく変わった

しかし
レイカさんの指摘は
けっこう
あたっていて…



僕にモテ期が
来ていたのだ…!!

はははは



教室では
同級生の女の子と
会話するようになり…

そろそろ
次の授業に
行かないと…

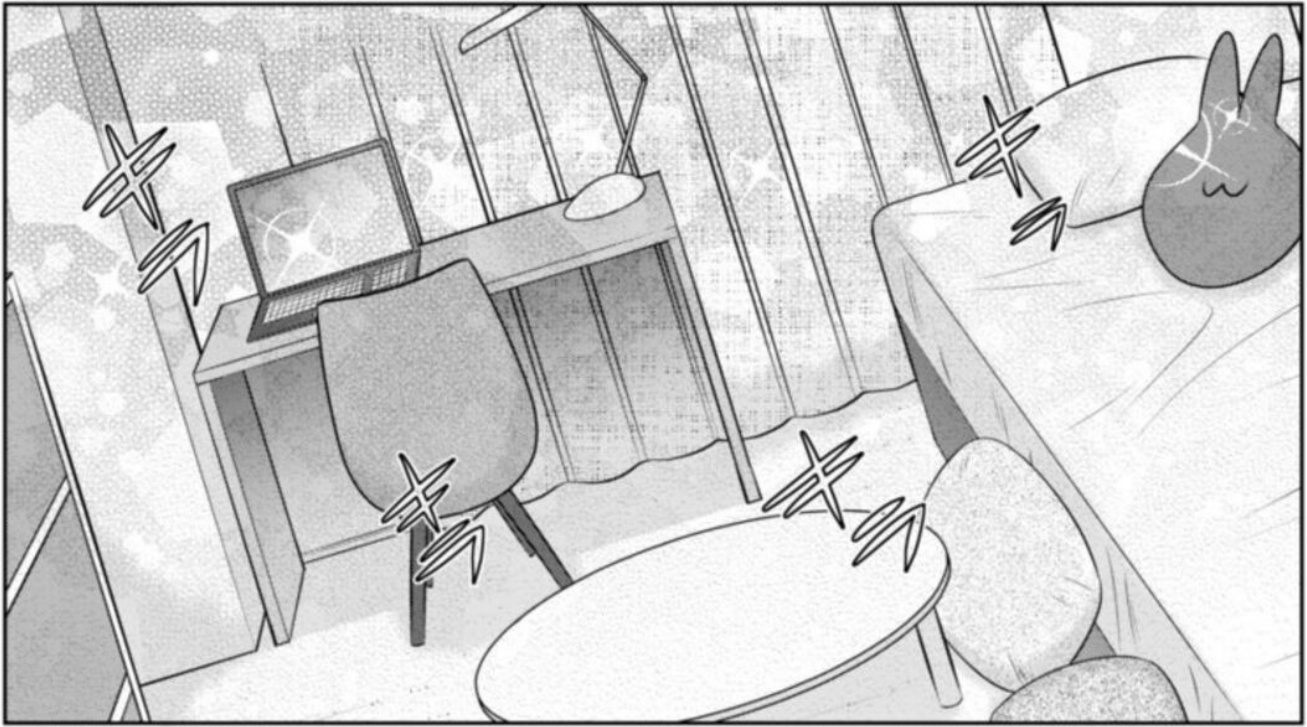
ああ…

じゃあね
江形くん

またノート
見せてよね!

頼りに
してるわよ!











は…
羽澤さんっ!?



!?



い痛っ



だって私…

そういう
江形くんが
好きだったん
だもの…



だって
悔しかった
のよ…

……



さつきの紅茶に
入れておいたED薬が
そんなに効果が
あるとは思
わなかったわ

ひい…っ

羽澤さん
どうして
そんな…

ああ
ごめんね
江形くん







EDのお薬のせい
ばかりじゃ
ないわよねこれ



きのうも
そのレイカさんと
してたんでしょう？
たいした精力ね



ねえ
江形クン…



たとえば
お母さん
みたいな…



レイカさんと
別れるとは
いわないけど
私と付きあう気は
ないかしら？

私なら
その人と違った
愛し方ができると
思うわ





じゃあ
挿れるわよ

いいわね
江形くん……!

ああ
すごい……っ!

入ってきたわ……

江形くんの
おち●ちん……!

ハハハ

ハハハ

ズ

ズ

ズ

ズ

アハハ



















母の親友が僕の愛人になった件(2)

著者 畠山桃哉
レーベル アシオナNEXT

★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。

★本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。
